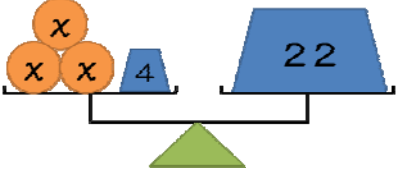


実施学年	1年	実施教科 (科目)	数学	実施日	H24. 9. 12
単元名	一次方程式				
本時の内容 (項目)	等式の性質を使った方程式の解き方				
本時の目標	等式の性質を使って式を変形していくことによって、方程式を解くことができることを理解し、等式の性質を正しく使って解くことができる。				
授業場所	教室	ICT活用時の 授業形態	一斉学習・個別学習・グループ学習		
ICT活用場面	導入・展開・まとめ・他 ()		ICTの主な 活用者	教師 ・ 生徒	
活用するICT 機器	電子黒板				
ICTを活用する 目的・ねらい・予想される 効果	方程式をてんびんの図に置き換えて考えられるようにする。そのために問題提示を、図で行うようにする。それによって、等式の性質を使った方程式の解き方を、生徒がてんびんの図を使いながら説明することができるようになることを望む。				
児童生徒の情報活用能力を 育てる指導場面・指導内容	自分の考えを図を使って説明する場面。				
利用するコン テンツ名・サ イト等	特になし				
参考にしたサ イト・文献 等	特になし				
事前の準備	提示する図の作成				

<p>指導計画（授業の展開）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●前時の振り返り 等式の性質①～④を確認する。 ●問題提示 次のつり合っている天秤にある操作をして、ボール1個分の重さを求めましょう。 【例題①～④】 それぞれ等式の性質①～④のどれかを一度使えば解ける問題 ●課題追求 $3x + 4 = 22$ (1)ボール3個分の重さは？ (2)ボール1個分の重さは？ ●練習問題 ●まとめ 方程式を解くためには、等式の性質を使って左辺が x だけの式に変形していけばいい。 ●評価問題 方程式 $5x - 2 = 38$ を解きなさい。 	<p>(※情報モラルの指導内容)</p>
<p>ICT を活用した授業時の教師側（指導上）の留意点</p>	<p>方程式を天秤の図としてとらえる導入として活用するので、授業終末では図にこだわらず、式を変形することに意識を向かせたい。式だけではどんな操作をすべきか判断できない生徒に対して、考えの補助として活用できるようにしていきたい。</p>	
<p>ICT を活用した授業時の児童生徒の反応</p>	<p>両辺に同じ数を加える，両辺から同じ数をひく，両辺に同じ数をかける，両辺を同じ数でわるという4つの操作のどれかを選ぶという意識をもって問題を考えることができた。</p>	
<p>ICT を活用した授業後の評価（実践の手応え）</p>	<p>多くの生徒が自由に図に考えを書き込めるように活用することができず，一部の生徒だけ発表の際に指さして説明したり，式を書いたりするだけの利用の仕方になってしまった。導入での全体確認にのみ利用して，分からないときのヒントとして用意しておく程度で本時は良かったと感じた。もっと計算問題に取り組む時間を多くしたいと反省した。</p>	
<p>今後の課題</p>	<p>大きな画面であっても教室の端からは見難いことがあるので，プリントなどと合わせて問題提示はするべきと感じた。 実物投影機と電子黒板をつなげて，生徒のノートでの考えを映すことで，より自分の考えを相手に分かりやすく説明できるようにしていけると思った。</p>	

※情報モラルを指導したときは、その指導事項及び指導内容を記入する。